

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970100990		
法人名	社会福祉法人 ふるさと会		
事業所名	グループホーム 浦戸の里		
所在地	高知県高知市横浜20番1		
自己評価作成日	平成30年9月18日	評価結果 市町村受理日	平成30年12月14日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた事業所で、浦戸湾が一望でき、中庭から山にもすぐ行くことができます。

事業所では、利用者個々の能力に応じた役割を持ってもらい、楽しみを取り入れながら、充実した生活を送ることで、認知症予防と自立支援に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihontrue&amp;ji_gyosyoCd=3970100990-00&amp;PrefCd=38&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihontrue&amp;ji_gyosyoCd=3970100990-00&amp;PrefCd=38&amp;VersionCd=022</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成30年10月19日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は浦戸湾の景観が一望できる風光明媚な場所に立地し、広い敷地内には、母体法人の運営する総合福祉施設として特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所が併設されている。母体が医療法人であり、家族には安心感を与えている。

事業所理念である「その人らしく生きる主体として暮らす」の実現のため、職員は利用者一人ひとりの思いに沿った暮らしを尊重して、日々のケアに取り組んでいる。

併設施設と合同で交流会行事や防災訓練、研修会などが行われている。事業所所在地は津波警戒地区でもあり、同一敷地内の施設の4階以上への避難が必要なため、避難訓練が重要視されている。

管理者は長年勤務の職員からの昇格で、職員との関係も良好であり、管理者を中心に、利用者一人ひとりの自立を目指しADLを落とさないケアに取り組み、利用者に寄り添った事業運営が期待できる事業所である。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名：やまもの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体法人理念を基本に事業所としての理念を定め、ケアでの実践のためにユニット会、全体部署会で話し合いをして、実践に努めている。	家庭的な環境の中、その人らしい生活を支え、地域での触れ合いを大切にするという理念が掲げられ、職員はケアでの実践に努めている。ユニット会や全体部署会で話し合いが行われ、意識付けが図られている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体法人主催のイベントやいきいき百歳体操に参加することで利用者は地域との交流の機会を持ち、スーパーへの買い物や、近隣保育園児との交流の機会を続けている。	近くの保育園児との交流のほか、いきいき百歳体操に参加し、地域住民との交流が図られている。歌のボランティアの訪問も毎月あり、母体法人からの地域情報や、運営推進会メンバーである民生委員からの情報も得ている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体法人主催の家族交流会で、認知症の予防や理解などの講習を聞く機会を作っている。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所活動状況や事故、ヒヤリハットの報告を行い、参加者と活発な意見交換ができるようにして、サービス向上につなげている。	事故、ヒヤリハットの内容、原因、対策について具体的に説明されるほか、事業所運営、行事報告が行われている。自己評価や外部評価結果報告、目標達成計画が議題とされていないほか、議事録上質疑応答が少なく、議事録の全家族への送付もされていない。	自己評価、外部評価の結果や目標達成計画を議題に挙げ、参加メンバーからの意見がより多く得られるようにすることと、議事録を送付する等、全家族に協議内容を周知することを期待する。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者には制度上分からない点を尋ねたり、相談することで助言を得ている。市南部グループホーム連絡会に参加し、他事業所の動向を聞き、サービスの相談をすることで協力関係が構築できるよう努めている。	運営推進会議で事業状況を伝え、インフルエンザ対応などの適切なアドバイスを得ている。分からない事項の確認、指導を受けるなど、日頃から連携が密に取れている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人による身体拘束防止委員会に各部署の職員を参加させ、部署会で発表と報告することで周知している。	職員は、母体法人研修を通じて身体拘束をしないケアについて十分理解している。3ヶ月に一度、身体拘束廃止について4名の身体拘束防止委員会メンバーで話し合い、結果を全職員に伝えている。転倒防止のため、6名が家族の了解を得てセンサーマットを使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体法人による虐待防止委員会に部署の職員を参加させ、全体部署会で勉強会を行うことで、考えられる虐待の事例や不適切ケアについての取り組みができています。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会での取り組みは行っている。成年後見制度については、職員の理解を深める必要性を感じている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、余裕を持った時間を確保し、項目毎に丁寧に説明している。質問や不安、要望が気軽に話しやすい雰囲気づくりに心掛け、家族が納得した上で同意を得るようにしている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の会話の中から、利用者の率直な意見を汲みとり、家族面会時などにも話しを聞くことなどで意見、要望が個別のケアに反映できるよう取り組んでいる。運営推進会議の場でも報告し、運営に活かせるようにしている。	日ごろの面会時等での家族とのやり取りの中で意見、要望を聞いているほか、毎年11月に行われる母体法人施設での講演会などに7～8名の家族の参加があり、家族同士で話し合える場を設けている。家族からの意見、要望は個別ケアに活かすようにしている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会や部署会で、運営に関することや改善事項について職員との意見交換、話し合いの場を設けている。また人事考課でも法人や事業所に対する意見や要望を記載する項目を設け、個々の意見を聞く仕組みがある。	毎月のユニット会ではケア目標や行事、利用者状況等が協議されている。2ヶ月に一度の全体部署会では、各ユニット会からの報告や研修報告、希望や要望などを話し合っている。「浴槽に手摺りをつけて欲しい」との要望が職員からあり、取り付けられた。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面接と年2回の人事考課で職員の勤務状況を評価し、昇給や賞与に反映させて、意欲を持って働ける環境づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人、外部主催の研修に参加し、参加者には、業務で実践できるよう部署会で発表してもらっている。また、個々の経験年数に合わせてステップアップができるよう、研修計画を立案している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市南部グループホーム連絡会に参加し、意見交換やネットワークづくりを行い、相互のサービスの向上に努めるとともに、他部署との会議にも参加して、サービスの見直しを行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安軽減のため、入所前の面接の際に十分な傾聴を行い、情報収集に努め、入所後は本人の不安な気持ちが和らぐよう本人と情報共有をし、信頼関係づくりに努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人より家族の希望で入所する場合が多いので、入所前に家族の不安や疑問を解消するように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後の本人の状況や家族の要望などを聞き、事業所に馴染んでもらうことをベースに、意向に沿ったサービスの提供と実施ができるように努めている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じて役割を持ってもらい、職員と共に日常生活を送っていると実感できるよう心掛けると共に、コミュニケーションが上手いくように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入所時説明の際に家族に受診同行、行事への参加、外泊、外出などを依頼し、本人との関係が薄くならないよう、事業所と共に支援してもらえるよう依頼している。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族にも協力しておらい、行きつけの店には継続して行けるよう支援している。友人、知人との交流なども、今までの関係が継続できるよう支援している。</p>	<p>4～5名の利用者が家族と馴染みの美容院に通っている。「親類の家に連れて行って欲しい」と希望する利用者は、家族にその旨伝え、同行を依頼している。買い物に行った際に知り合いの方と再会したり、地域の友人などの訪問も多くあり、馴染みの人や場との関係継続がされている。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個々の生活状態に配慮し、周りの利用者と関わりが持てるよう、職員が間に入ったり、遠目で見守ったりして、各々が支え合える関係づくりができるよう支援している。相性の良い利用者はできるだけ一緒に外出する等、関係が更に良くなるよう努めている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も転居先や入院先に職員が面会に行ったり、家族が近況報告に訪ねてくれたりしている。時には相談されることもあるので、できる限りの支援を続けている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自分で希望が伝えられる利用者については、何気ない日常の会話や外出での本人の意向を把握し、それが難しい利用者は、生活歴と家族からの情報によ、り思いに沿えるよう努めている。</p>	<p>利用者の日々の行動、会話、家族からの情報から利用者の思いを汲み取り、その人のできることを引き出して、日々のケアに取り組んでいる。日々の新たな情報は職員間で共有し、フェイスシートの「私の暮らし方シート」に随時記録して、年1回更新している。</p>	
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前に本人から情報収集して把握しているが、入所後も本人の言葉や本人以外の人からの新たな情報もあり、継続して情報収集に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の気づき等を職員間で共有し、担当者会やモニタリング時に話し合い、本人にとって何が最善かを現状分析している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場職員だけでなく他職種の意見も参考にし、担当職員が3ヶ月毎にモニタリングを行っている。家族、本人の意向を反映させたケアプランを立案して、アセスメントやモニタリングを繰り返しながら、残存機能を活かし次のステップへ進められるように支援している。	利用者や家族の意向や要望を取り入れ、利用者の日々の変化を把握し、担当職員や他の職員の意見などをもとに、介護計画を作成している。3ヶ月毎に見直しを行い、状況変化があれば随時見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の進捗状況や新たな気づきを職員間で話し合っ情報共有し、本人にとっての最適な介護計画になるよう努めている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせたサービスを心掛け、要望に対して母体法人内施設を利用したり、通院や買い物の代行などに柔軟に対応できるよう、心掛けている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、スーパーに買い物に行ったり、その他、母体法人の祭りに参加したりと、地域資源を活かしながらその人らしく生活していけるよう支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診を行い、医療面での相談や助言をもらって、早期対応、適切な医療が受けられるよう支援すると共に、家族と情報共有し、納得してもらえるように努めている。	本人、家族の希望を聞き、入所前のかかりつけ医も継続受診ができています。受診は家族対応だが、状況に応じて職員が対応している。協力医をかかりつけ医としている利用者は職員が同行し、受診結果は家族に必ず電話で報告している。受診結果は家族、事業所双方で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者個々の疾患等について指導を受けている。また、症状の変化などの気づきがあればその都度報告し、早期発見に努めている。必要に応じて受診も行っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を作成し、利用者の特徴や病名、既往歴を医療機関に報告している。また、定期的に見舞いにも行き、症状の確認や退院後の注意点などの情報が事前に得られるようにしている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所説明時に看取りの指針を説明し、家族から同意書を得るようにしている。重度化した際には、医療面での支援、その他の医療サービスが適切と思われる場合にはそれらにつなぐ支援をしている。	入所時に利用者、家族に「看取り(重度化)に関する指針」を説明し、同意書を得ている。職員は看取りに関する母体法人の勉強会には参加しているが、看取り実績はない。重度化した場合には、母体法人の医療機関での対応としている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体法人主催の勉強会に参加し、職員は知識を得ている。マニュアルを整備し、定期的に見直すなどして、職員の対応力の向上に努めている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体法人主催の避難訓練に参加している。日常の散歩がてらに避難経路を確認している。	消防署の指導を得て、母体法人合同災害訓練を日中と夜間想定で年2回行っているが、地域住民の参加協力はない。災害時には、母体法人施設が地域の緊急避難場所に指定されており、地域住民や利用者は、4階以上の避難場所への移動訓練を行っている。	災害時には地域住民の協力が不可欠であり、運営推進会議メンバーの協力も得て、地域住民が参加した防災訓練を期待する。併せて、事業所独自の訓練実施にも取り組まれない。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを考え、さりげないケアを心掛け、自己決定、自己選択がしやすい声掛けをするように配慮している。	利用者の人格を尊重し、話しは否定せず共感姿勢で接している。利用者がやりたいことは危険でない限り制止せず、申し送りは別室で行い、本人や他の利用者に聞こえないようにしている。排泄時にはドアを閉め、自尊心を傷つけない言葉掛けに配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる利用者にはそれに沿えるよう支援し、そうではない利用者には、日常生活の中で自己決定の場が増えるよう働きかけを行っている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、朝の会を行い、その中で新聞を一緒に読んだり季節の話題を出したり、会話をしながら本人の意向を聞き、それを優先して支援するように努めている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣時や外出の際の洋服選び等に本人の納得のいくまで付き添い、ちぐはぐなものにならないよう支援している。定期的に美容院を利用したりもしている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立とし、食事形態は個々の状態に合わせた物を提供している。洗濯や下ごしらえ、片付けの際には、手伝いたいのが聞かれ、利用者も一緒に行う環境ができています。	利用者の希望を取り入れ、毎週献立を決めている。献立表は、母体法人の栄養士に見てもらっている。利用者を見守りながら、職員と一緒に楽しく食事を取っている。利用者には、準備、食器洗い、盛付け、食材切り等、できることを手伝ってもらっている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人栄養士のアドバイスを得て、栄養が偏らないようにしている。食事、水分摂取量を記録し、体重の増減にも留意して、体調不良の心配がある場合には、看護師に相談するなどしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きで口腔ケアを実施している。夜間の義歯洗浄、消毒については、職員が付き添いながら支援している。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録し、状況に応じてトイレの声掛け、誘導を行って、オムツの使用を最小限に抑えるよう努めている。	個々の排泄パターンを把握し、利用者の状況を見守り動きを見て、耳元で声かけし、各居室のトイレに誘導している。布パンツ、紙パンツ、パットは個々に応じて使用している。夜間も部屋の照明が付くと明かりで確認が出来るので、職員が声掛けに行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善に向け、水分、食事、運動促進に配慮し、腹圧のかかる運動やマッサージを取り入れている。食材への気配りや水分摂取に努め、できるだけ自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は2日に一度のペースで入浴しているが、本人の体調、希望に沿って入浴支援をしている。体調不良などで入浴できないときには、足浴や清拭で対応している。	個々の希望に応じた入浴支援が行われ、平均2日に一度の入浴となっている。一人で2時間位入浴する利用者もいる。異性対応を拒む利用者には、同性職員が対応している。入浴時の着替えもそれとなく準備して、本人が出来たと思うよう配慮している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで自由に過ごしてもらっている。夜間ぐっすり眠れるよう朝は窓を開けたり、散歩に行くなどしている。夜間のトイレ誘導は、睡眠の妨げにならないよう、本人の習慣に合わせて行っている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に常に最新の処方箋を挟み、いつでも確認できるようにしている。変更があった場合は職員間での周知徹底に努め、服薬時には何重ものチェックができるよう体制を整えて、誤薬がないようにしている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で本人の生活歴を活かした役割を果たし、利用者に張り合いや喜びを感じてもらえるよう支援している。買い物と一緒に好き好きなものを購入したり、誕生日会をはじめ各種イベントを開催して、気分転換を図っている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の意向を聞いて、可能な限り散歩や短時間のドライブに出掛けている。家族の協力を得ながら、花見やみかん狩り、外食や外泊も行っている。	午前と午後に、利用者の意向で散歩に出かけている。利用者の希望する買い物にも一緒に出かけている。郊外に季節の花見やドライブにも、毎月出かけている。利用者は、月1回の外食を楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持することで、安心感を持ってもらっている。職員との買い物時には支払いをしてもらっている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかけてもらっている。手紙は、要望があれば葉書を購入して支援をしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースとして台所、食堂、リビングがあり、季節に応じた絵画や花を飾り、季節感を大切にしている。	南向きのフロアには海からの潮風が入り、暖かい陽射しが差し込んで、利用者は、大きなテーブルとソファでゆったりと寛いでいる。パッチワークの作品や写真、折り紙、利用者が職員と一緒に作ったジグソーパズルが沢山壁面に飾られ、居心地のよい空間づくりの工夫がされている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースは台所、食堂、リビングに分かれており、気の合う利用者同士テーブルに座り、話しをよくしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に居室の空間づくりについて説明し、自宅で使用していた馴染みのある家具などの持ち込みをお願いしている。	各居室にはトイレ、洗面台、広い押し入れがあり、収納チェスト、筆筒などに衣類が整理整頓されていた。全身が映る姿見で確認して、お洒落に着こなしがされている。家族、孫の写真も飾られ、個々の利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自立した生活を送れるよう、危険箇所に配慮しながら支援している。		

ユニット名:

やまももの家

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:しらすぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が母体法人の理念にある尊厳やその人らしさを尊重し、実践ができるように、ユニット会や部署会で話し合いをして共有し、実践に努めている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体法人主催のイベントや地域の祭りに参加することや、近隣のスーパーやバザーに買い物に行ったりすることで、利用者が日常的に地域交流の機会を持てるようにしている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族交流会を実施し、認知症予防の講習を地域の住民に聞いてもらう機会を作ったり、職員も交えての交流会も同時開催し、普段からの疑問を話してもらえるように取り組んでいる。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事、事故報告はもとより、可能な限り家族や地域代表の意見が反映できるように取り組んでいる。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	可能な限り市南部地域グループホーム連絡会に参加し、他事業所の動向や議題について、グループワークなどでお互いに協力関係が構築できるように努めている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人主催の身体拘束廃止虐待防止委員会に部署の職員を参加させ、部署会でその内容をフィードバックしていけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体法人主催の身体拘束廃止虐待防止委員会に部署の職員を参加させ、部署会でその内容をフィードバックしていけるように努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者もいるが、職員の制度の内容の理解は不十分であり、母体法人主催の講演に参加し、活用の為の準備を整えていく。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に必要な関係書類を2部準備し、家族に見てもらい、口頭で読み上げながら説明を行っている。不明な点を尋ねながら、その都度確認している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中での会話から利用者の率直な意見を汲み取ることや、家族会時等にも話しを聞くこと等で、事業所に対する意見、要望が運営に反映できるよう取り組んでいる。また、それらを運営推進会議の場でも報告している。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会、全体部署会で運営に関する事項や改善事項などについて話し合う機会を設けている。また、人事考課シートにも事業所意見や要望を記載する項目があり、個々の意見を聞く仕組みができています。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員個々に面接も行き、人事考課シートと併せて職員の勤務状況を評価して、昇給や賞与に反映させることで、職員が意欲を持って働きやすい環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルにあった内外の研修に参加してもらい、研修参加者にはフィードバックできるように部署会などで発表してもらったりして、気付いた点を業務に活かせるようにしている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市南部地域グループホーム連絡会に参加して意見交換を行うとともに、ネットワークづくりをすることで相互のサービス向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、入所直後に本人の生活歴を聞き取り、可能な限り今までの生活環境に近づける工夫をしたり、不安な気持ちを和らげるよう明るく話しかける等して、関係づくりに努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に家族のいま困っていることや、要望を聞き、家族と職員が共通の思いを持つような関係づくりに努めている。入所後も電話や面会時などで利用者の状況を報告し、家族に安心してもらえるよう心掛けている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の本人の状況や、家族の要望などを聞き、今一番必要な支援は何かを見極めながら、より良いケアが実施出来るように努めている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の能力に応じた役割を持ってもらい、職員と共に日常生活を送っていると実感できるように心掛けている。言葉使いにも配慮し、共に過ごし、支え合っていると実感してもらえるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、契約の際に受診同行や行事への参加、外泊、外出等での協力を依頼し、職員と共に支援してもらえているようにしている。遠方の家族にも利用者の近況を電話や手紙で知らせ、関係継続維持に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望を取り入れ、入所前に通っていた場所や思い出の場所等へ行けるよう、家族にも協力してもらいながら、関係継続ができるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの生活ペースを大切に、周囲の方との関わりが持てるよう見守りながらも時には職員が仲介して、お互いが支え合える関係づくりができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族が近況報告に訪れてくれたりしている。時には気さくに相談事に応じることなどで、良好な関係が保たれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での利用者の何気ない会話や、表情から本人の意向を汲み取るよう心掛けながら、関わりを持っている。そして、利用者の意向に沿った支援ができるよう、職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や入所時に、本人、家族から生活歴を聞き取っている。入所後も、本人との関わりの中で今までの暮らしについて聞いたり、家族との連携を取り合って、新たな情報把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の状態などの気づきを、日誌や申し送りノートを活用して共有している。また、ユニット会などで職員が情報を出し合い、利用者個々の状態把握と分析を行っている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングで日々の生活を評価し、振り返りをしている。家族、本人の意向を反映させたケアプランを立案している。また、他職種の意見も参考にし、残存機能を活かしながら、次のステップへ進めるように支援している。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での気づきや、介護計画の進捗状況を個別記録に入力していくことで、情報共有している。介護計画見直しの際には、記録を振り返り、評価していくことで記録の活用している。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生活の中で通院支援、買い物代行、外出支援など、家族や本人のニーズや要望に応えられるように努め、柔軟な対応ができるよう心掛けている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、近隣商店に買い物に行ったりすることで、利用者和社会とのつながりを大切にしている。また、散歩することで近隣住民との触れ合いも大切にしている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診を行い、医療面での相談、助言をもらいながら適切な医療が受けられるように支援している。また、突発の病院受診の際にも家族に事前連絡し、家族の希望も大切にしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、利用者個々の疾患について日常的に看護師の指導を受け、情報共有している。症状の変化や気づきがあれば、その都度看護師に報告、相談し、早期発見と早期受診に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には情報提供書を作成し、特徴や心身の状態を医療機関に報告している。入院後は定期的に見舞いに行き、病状把握に努めて、退院後の注意点などの情報も事前に得られるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所説明時に看取りの指針を説明し、同意書を得るようにしている。また、重度化した場合には医療面での支援や、他の医療サービスが適切と思われる際にはそれらにつなぐ支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、母体法人主催の勉強会や外部で行われる研修に参加して、知識習得に努めている。また、マニュアルを整備し、新人職員にも指導していくことで、職員全員が実践できるよう、対応力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体法人全体で定期的に防災訓練を実施しており、全職員が避難手順を把握できるように努めている。地域との協力体制については、訓練の中で役割を持つようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人としての尊厳保持の大切さを認識して、常本人の立場に立ち、尊厳やプライバシーを重視した対応ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で本人の思いを汲み取り、また、その性格を知ることによって各々に合った言葉かけができ、利用者が自由に自己決定できるよう支援している。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の朝の会で利用者のその日の状態を把握し、新聞と一緒に読んだり、季節の話題に触れながら、どのように過ごしたいか利用者の希望を引き出せるよう支援している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から化粧をしたり、外出の際には普段とは違う洋服を勧めたりすることで、おしゃれが続けられるように支援している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の得意な利用者と一緒に台所に立ち、話しをしながら料理をしたり、ホットプレートなどを活用し、座りながら料理が楽しめるようにしている。季節に合った食材やメニューを、一緒に買い物しながら選んでもらったりしている。		
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人に合った食事形態や内容が提供できるよう、摂取状況を把握しながら栄養が偏らないように支援している。水分が少ない利用者には、お茶ゼリーなどを提供することで、水分摂取につなげている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時には、自分でできることはしてもらい、各々の状態に合わせて援助し、清潔が保てるようにしている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録である程度把握し、状況に応じてトイレの声かけや誘導を行うことにより、失禁回数を減らすことに努めている。また、本人に合った環境設備を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による弊害について、勉強会のみならず日常的に職員同士で注意喚起し合っている。便秘対策として、食材への気配り、水分摂取に努め、できるだけ自然排便ができるように支援している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2、3回は入浴できるように調整し、その日の体調や本人の希望に沿って入浴できるように支援している。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて就寝できるよう支援し、寝付けない利用者には無理強いをせず、眠くなるまでゆっくりと安心できるような言葉かけ、支援を行っている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に最新の処方箋を挟み、いつでも確認できるようにしている。変更時には、口頭伝達、申し送りノート、日誌、個人台帳に記入し、周知徹底に努めている。細かな変化でも個人台帳に記入し、症状変化の早期発見ができるよう努めている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々の役割を持てるよう、買い物と一緒に好き好きなものを購入したり、誕生日会をはじめ各種イベントを開催したり、ボランティアの歌や演奏を楽しんでもらうなど、喜びが得られる生活となるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時々で本人の意向を取り入れ、可能な限り外出支援をしている。季節の花見に行ったり、ドライブへ行くなどし、気分転換が図れるよう対応している。また、家族の協力も得ながら、意向に沿えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向に沿って金銭管理を自分でしている利用者もあり、買い物の中で、自分で支払いができるように支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際には電話をかけてもらったり、遠方の親族や知人との手紙のやりとりも支援をしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは台所や食堂のほかリビングがあり、なるべく生活音を避け、季節に応じた絵画や利用者と一緒に作成した壁紙などを飾り、季節感を大切にしている。採光などにも気を配り、居心地の良い空間となるように心掛けている。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは、台所と食堂、リビングに分かれており、それぞれ自由に移動したり、座ったりできるようになっている。お互いストレスのない居場所づくりに努めている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、本人がなるべく使い慣れた家具を持ち込んでもらえるよう伝え、本人にとって居心地の良い空間となるように努めている。本人の動きに合わせて配置換えをして、安全に過ごせるよう支援している。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間の中の危険箇所に配慮しながら、可能な限り自立した生活を送ってもらえるように支援している。また、本人が安全に生活できるよう努めている。		

ユニット名:

しらすぎの家

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない